



宮中晩餐会におけるチュオン・タン・サン国家主席

御挨拶

(2014年3月17日)

天皇皇后両陛下

ご列席の皆様

はじめに、ただいま陛下より私、妻、そしてベトナムのハイレベル代表団に賜りました親しみに満ちた暖かい歓迎のお言葉に大変感動し、心より感謝申し上げます。

貴国訪問の機会に何度も恵まれましたことは私にとって大変栄誉なことであり、私は訪日の毎に、歴史ある独自の文化的伝統を有する美しい日本という国、世界の人々から感服の念を得ているところの、目覚ましい経済発展や科学技術における革新をもたらした勤勉で、才能と創造性に溢れる日本人々に、大変深い感銘を受けております。今回、大震災から間もない2011年6月以来、約三年ぶりに日本に戻ってまいりましたが、日本の政府と国民が国の復興のために並々ならぬ努力をされていることを目の当たりにし、また一層感銘を受けております。今回の私たちの日本訪問は、まさに春を迎えようとする季節にあたり、桜が日本中に花を咲き誇らせようと準備している時期にあたります。ベトナム人にとって、春は、素晴らしい新たな一年とすべての幸運の始まりでございます。従い

まして、私は、日本の国民の皆様が、陛下のお心遣いを得ながら、意志と才能、知恵とみなぎる生命力により、引き続き新たな成功を収め、日本の更なる繁栄を築いていかれると確信しております。

天皇皇后両陛下

ご列席の皆様

ベトナムと日本は外交関係樹立四十周年を成功裏にかつ盛大に記念しました。歴史を振り返りますと、両国間の交流は更に古くから始まっていたことが分かります。一千年以上前の八世紀には、仏哲という名のベトナム人僧侶が日本を訪れ、奈良県東大寺の大仏開眼供養に列席したという歴史的記録が多く残っております。ベトナムの古い町ホイアンでは、今から四百年以上昔に船で海を渡った日本の商人の軌跡が、現在でも日本橋や日本人墓地といった多くの遺跡から見取ることができます。ベトナムの王女と商人荒木宗太郎との赤い糸は、今日に至るまで「長崎くんち」で再現され続けております。2013年には、両国のテレビ局がドラマ「パートナー」を共同制作し、二十世紀初頭に、ベトナムの愛国の志士ファン・ボー・チャウと日本の医師浅羽佐喜太郎が美しい友情を結ん

だ物語を描いて、何百万人ものベトナムの人々と多くの日本の友人たちに感動を与えました。

私は、地理的な距離があっても、両国民の間にある文化の共通性、歴史的な結びつきと情感こそが、ベトナムと日本の外交関係を深化させ、両国の距離や時間の流れという障害を乗り越えて関係を築いていくための確固たる礎となり、今日においては、両国が戦略的パートナーであるのみならず、真の友人同士であるための「膠」のような役割を果たしていると確信しております。

両国間の良好な関係の下、また、両国の国民の期待と親愛の情に応えるべく、今回の日本訪問において、私は日本の指導者の皆様と、すでに過去最高の良好な段階にあるベトナムと日本の関係を新たな次元へと高め、一層深化・拡大し、効果的なものにするため、その大きな方向性について意見交換を行います。

天皇皇后両陛下

ご列席の皆様

ベトナムの国家と国民は、20世紀に我が国における民族解放闘争及び祖国統一の闘いの中で、ベトナム国民のために日本国民が行った反戦運動、募金や

薬・服・本などの寄付といった支援活動から、日本国民の心からの支援及び団結の情を常に感じることができ、またそれに感謝申し上げます。現在、ベトナムが歩んでいる国の建設・発展と工業化・近代化の道において、日本はこれまでも、今も、そしてこれからも、一流のパートナーであり、信頼し共に歩む友人です。

この場をお借りしまして、改めましてベトナムの国家と国民を代表し、天皇皇后両陛下、皇族の皆様及び日本の政府と国民から賜りました、ベトナムの国と国民に対する美しいご情感と深いご関心に心より御礼申し上げます。

心温まる、そして友好に満ちた今夜、貴国、ベトナム、そしてベトナムと日本の関係が今後も発展することを信じ、乾杯の発声をさせていただきます。

天皇皇后両陛下のご健勝を祈念し、

日本国のご繁栄と日本国民のご多幸を祈念し、

ベトナムと日本の友好・協力の関係がますます強化され発展することを祈念し、

本日ご列席の皆様のご健勝を祈念致します。

天皇皇后両陛下、どうもありがとうございました。